

No.	⑪	分類	3-(1)-イ	資料名	お弁当	学年	2年	領域	道徳	4-(3)
-----	---	----	---------	-----	-----	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 男女共同参画社会の実現に向けて、性別による固定的役割分担意識を見直し、家庭や学校、地域や職場において、個性や能力を発揮し協力し合おうとする意識を高める。

2 趣旨

- 性別により家族の役割や仕事が制限されることなく、男女が共にその人権を尊重するとともに、差別を解消しようとする意欲を養う。
- 男女共同参画の視点に立ち、性別によらず誰もが自分の個性や能力を発揮できることが、社会全体を豊かにしていくということを認識させる。

3 配慮事項

- 生徒の家庭状況を把握したうえで、家族の形態は多様であってよいことを伝える。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 弁当にまつわる話を出し合う。 ・作るのは誰か。 ・弁当箱は誰が洗うのか。 など	・話し合いやすい雰囲気を作る。 ・自分の家庭生活を振り返り、クラスの話の聞き、家庭によって違うことを知る。
2 資料を読み、登場人物の気持ちを話し合う。 「咲希」は、どうして、優人のお母さんが弁当を作ったと思ったのでしょうか。 ・「咲希」の家では母親が弁当作りをしていて、他の家でも同じだと思った。	・咲希には、弁当を作るのは母親だという潜在的意識があることに気づかせる。
お父さんは、どうして、「係長にならなかつたらよかった。」と言ったのでしょうか。 ・晩ごはんが遅くなるのが、嫌だった。 ・「女の人は仕事よりも家庭を優先にすべきだ。」という考えをもっていた。 ・母親以外の誰かが晩ごはんを作ってもよいという考えがなかった。 ・係長としてのやりがいを感じなかった。 ・遅くまで働く母親の健康を心配した。	・母親が帰ってくるまで、誰も何もせずに待っていることの不合理さに気づかせる。 ・「女性は仕事より家庭を優先すべきだ。」という考え方が女性の社会での活躍を妨げていることを認識させる。 ・母親自身が、家事は女性がするものだと思っているところがあることに気づかせる。 ・長時間労働の問題にも触れ、管理職であってもワークライフバランスが必要であることに触れる。
3 「咲希」の気持ちの変化を考える。 「咲希」は、どうして「できることをしてみようよ。」と言ったのでしょうか。 ・友だちの家の話を聞いて、お母さんだけが家事をするのはおかしいことに気づいた。 ・保育園の先生の話聞いて、お母さんが仕事と育児の両立にがんばっていたことに気づいた。 ・目標をもって仕事をするお母さんを応援したいと思った。 ・女性が活躍できることが社会全体にとって幸せなことだと考えた。	・咲希が友だちや保育園の先生との会話の中で不合理に気づき、自分の家庭を変えようとしていることに気づかせる。 ・男女共同参画社会の実現のためには、家事や育児、介護、仕事について協力し合うことの大切さを認識させる。 ・日本では、まだ女性の管理職が少ないが、政府は2020年には30%を目標にしていることを知らせる。(第3次男女共同参画基本計画)
4 本時のまとめをする。	・多様な考え方を尊重することが大切であることを押さえる。

5 参考

- 第3次男女共同参画基本計画(2010年)については、活用の手引P54を参考とすることができる。